ＮＰＯ等の絆力を活かした復興支援業務

～多様な担い手による交流を通じた絆力強化事業～

報告書

平成 29 年 3 月 31 日

一般社団法人　みやぎ連携復興センター

目次

１．　事業概要 3
２．　実施報告（概要） 4
３．　実施総論 4
４．　復興・被災者支援に取り組む NPO と企業の円卓会議 5
（１）気仙沼セッション実施報告 5
（２）女川セッション 8
５．　復興・被災者支援に取り組む多様な担い手を対象としたリトリート研修 16
６．　復興に向けた絆力フォーラム 26

１．事業概要

・復興・被災者支援に取り組む NPO 等の非営利組織（以下 NPO）や企業などの多様な担い手同士の交流の場を設けることで、被災地復興の促進を行うことを目的とする。

・交流対象の担い手の現状に即して、以下、３つの交流の場を設けることとする。

① 復興・被災者支援に取り組む NPO と企業の円卓会議

② 復興・被災者支援に取り組む多様な担い手を対象としたリトリート研修

③ 平成 28 年度宮城県ＮＰＯ等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金
成果報告会・情報交換会

２．実施報告（概要）

#	企画名	実施日	開催場所	参加人数
①	復興・被災者支援に取り組むNPOと企業の円卓会議	2017/2/17	気仙沼	18人
		2017/3/3	女川	22人
②	復興・被災者支援に取り組む多様な担い手を対象としたリトリート研修	2017/3/17~ 2017/3/18	丸森	21人 内訳は、後述 「４－（3）参照」
③	平成28年度宮城県ＮＰＯ等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金成果報告会・情報交換会	2017/3/24	仙台	来場者延べ253人 うち 受付数69人

３．実施総論

「NPOと企業の円卓会議」「リトリート研修」はそれぞれ、①企業とＮＰＯの絆力を発表とワークショップと通じて学ぶ・考える場、②復興の担い手同士の絆力を、普段とは異なる環境で心身を解きほぐしながら学ぶ場と、異なる手法による開催であった。手法は異なっていたが、双方から共通して、絆力を強化するためには画一的な場・支援の提供ではなく、それぞれの担い手の立ち位置に応じた段階的な場・支援が求められていることが判明した。参加者アンケートからも満足度は高く今後もこのような場が求められていることが判明ている。

以下、各企画の実施報告を記載する。

４．復興・被災者支援に取り組むNPOと企業の円卓会議

（１）気仙沼セッション実施報告

①開催日時

2017年2月17日（金）15:00～18:00

②開催場所

K-PORT（宮城県気仙沼市港町1-3）

③参加人数

18名（内訳：企業7名、NPO 8名、行政3名）

④実施次第

１）開会・主旨説明（15:00-15:10）

２）ＮＰＯと企業の取組事例の共有（15:10-16:00）

企業とNPOの協働による取り組みを推進する6名に登壇頂き､取組事例の報告を実施した。

事例報告：・森成人氏　（一般社団法人リアス観光創造プラットフォーム）

・廣野一誠氏（アサヤ株式会社　専務取締役）

・熊谷俊輔氏（一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会　誘致推進課長）

・野田篤秀氏（認定特定非営利活動法人底上げ スタッフ）

・菊田忠衛氏（一般社団法人ボランティアステーション in 気仙沼 代表理事）

３）休憩（16:00-16:10）

４）ＮＰＯと企業のダイアローグ（円卓会議）（16:10-17:30）

「観光復興グループ」及び「復興人材育成グループ」の２グループに分かれ、参加者の自己紹介、及びそれぞれのテーマにおける企業とNPOの協働について意見交換を実施した。

５）交流会（17:30-18:00）

会場において、参加者同士の名刺交換や意見交換を実施した。

６）閉会・アンケート記入（17:00）

⑤参加者アンケート

回収率

		参加者数（事務局除く）	回収数	回収率
1	気仙沼セッション	18	7	38.9%
合計		18	7	38.9%

Ｑ１．あなたご自身についてお聞かせ下さい

１）地域

	地域	人数	%
	SA		N= 7
1	気仙沼市	7	100.0%
2	その他	0	0.0%
3	無回答	0	0.0%
合計		7	100%

２）属性

	属性	人数	%
	SA		N= 7
1	企業	3	42.9%
2	広義のNPO	4	57.1%
3	行政職員	0	0.0%
4	研究機関	0	0.0%
5	学生	0	0.0%
6	一般	0	0.0%
7	無回答	0	0.0%
合計		7	100%

Ｑ２．復興に向けて企業と NPO の協働を推進していますか

	企業とNPOの協働推進	人数	%
	SA		N= 7
1	推進している	4	57.1%
2	推進していない	1	14.3%
3	過去にしてきたが、現在はしていない	1	14.3%
4	これまではしてこなかったが、今後推進したい	1	14.3%
5	無回答	0	0.0%
合計		7	100%

Ｑ３．ダイアローグの感想をお聞かせ下さい

１）企業と NPO の相互理解

	感想：企業とNPOの相互理解	人数	%
	SA		N= 7
1	深まった	7	100.0%
2	深まらなかった	0	0.0%
3	どちらでもない	0	0.0%
4	無回答	0	0.0%
合計		7	100%

２）有益な活動事例やヒント

	感想：有益な活動事例やヒント	人数	%
	SA		N= 7
1	得られた	4	57.1%
2	得られなかった	0	0.0%
3	どちらでもない	3	42.9%
4	無回答	0	0.0%
合計		7	100%

３）今後の企業・NPO の協働推進

	感想：今後の企業・NPOの協働推進への意向	人数	%
	SA		N= 7
1	推進していきたい	7	100.0%
2	推進したくない	0	0.0%
3	どちらでもない	0	0.0%
4	無回答	0	0.0%
合計		7	100%

Ｑ４．今回のダイアローグで、どのような新たな気づきや情報がありましたか？

・企業も NPO も互いにどういう状況なのか知ることができた

・企業とのつながりを持つことで、信頼関係、他社への周知、地元の利益、等

・対話することが大事ですねぇ

・NPO の現状

・NPO 側の思いや求めていることが少しわかりました。

・地域のコンテンツづくりは、NPO さんが非常に推進力があることを確認できた。
企業が周知や CSR 活動で協力出来ればと思いました。

Ｑ５．今回のダイアローグで、わからなかった点、より知りたい点は何ですか？

・お互いの手札を知りたい。

・企業と結び付くきっかけ、を詳しく知りたかった

・引き続き、このような出会いの場を設定して下さい

Ｑ６．今後、どのような機会を希望されますか？

	希望する機会	人数	%
	ＭＡ		N= 16
1	企業とNPOの協働に向けた対話・交流の場	7	53.8%
2	企業とNPOの協働に向けた情報の提供	4	30.8%
3	企業とNPOの協働に向けた個別サポート	2	15.4%
4	その他	0	0.0%
合計		13	

（２）女川セッション

①開催日時

2017 年 3 月 3 日（金）13:30～17:00

②開催場所

女川フューチャーセッション Camass（宮城県気仙沼市港町 1-3）

③参加人数

22 名（内訳：企業 5 名、NPO 11 名、行政 5 名、学生 1 名）

④実施次第

１）開会・主旨説明（13:30-13:40）

２）ＮＰＯと企業の取組事例の共有（13:40-14:40）

企業と NPO の協働による取り組みを推進する 4 名（具体的に実践している 2 名×2 組）に登壇頂き、取組事例の報告を実施した。

事例報告：・阿部真氏　（ロート製薬株式会社 広報・CSV 推進部 東北地域連携室）

・中村志郎氏（特定非営利活動法人アスヘノキボウ）

・近藤公一氏（積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR 室）

・兼子佳恵氏（特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク　代表理事）

３）休憩（14:40-14:50）

４）ＮＰＯと企業のダイアローグ（円卓会議）（14:50-16:30）

ファシリテーター：山崎泰央氏（石巻専修大学 経営学部 教授）

山崎氏のファシリテーターのもと、①NPO と企業の相互理解が深まること、②NPO と企業の関係性のイメージが構築されること、の二点を目標に、意見交換を実施した。

詳細の進行スケジュールは以下の通りである。

時間	プログラム	概要
15	チェックイン	
20	ストーリーテリング	①前半の報告を受けて感じたこと、取り組んでみたいと思った事 ②自分たちの立場から、必要だと感じたこと
5	休憩	
5	シート記入	もっと話したい、もっと深めたい、取り組んでみたい事
5	グループ形成	マグネットテーブル形式でグループ形成して着席
20	ダイアローグ	①5-10 年後の未来を考える（プロトタイピング） ②未来と現在の間を埋める（バックキャスティング） ③5-10 年後の未来の新聞を作成する （自分たちのテーマが、5-10 年後達成された時どうなっているか）

15	チェックアウト	一人一人が今後、明日から出来ることを示す（付箋に書いて発表）

５）交流会（16:30-17:00）

会場において、参加者同士の名刺交換や意見交換を実施した。

６）閉会・アンケート記入（17:00）

⑤参加者アンケート

回収率

		参加者数（事務局除く）	回収数	回収率
1	女川セッション	22	9	40.9%
合計		22	9	40.9%

Ｑ１．あなたご自身についてお聞かせ下さい

１）地域

	地域	人数	%
	SA		N= 9
1	石巻市	4	44.4%
2	仙台市	2	22.2%
3	女川町	1	11.1%
4	大崎市	1	11.1%
5	その他	1	11.1%
合計		9	100%

２）属性

	所属	人数	%
	SA		N= 9
1	企業	0	0.0%
2	広義のNPO	3	33.3%
3	行政職員	3	33.3%
4	研究機関	0	0.0%
5	学生	1	11.1%
6	一般	1	11.1%
7	無回答	1	11.1%
合計		9	100%

Ｑ２．復興に向けて企業と NPO の協働を推進していますか

	企業とNPOの協働推進	人数	%
	SA		N= 9
1	推進している	3	33.3%
2	推進していない	4	44.4%
3	過去にしてきたが、現在はしていない	0	0.0%
4	これまではしてこなかったが、今後推進したい	2	22.2%
5	無回答	0	0.0%
合計		9	100%

Ｑ３．ダイアローグの感想をお聞かせ下さい

１）企業と NPO の相互理解

	感想：企業とNPOの相互理解	人数	%
	SA		N= 9
1	深まった	8	88.9%
2	深まらなかった	0	0.0%
3	どちらでもない	1	11.1%
4	無回答	0	0.0%
合計		9	100%

２）有益な活動事例やヒント

	感想：有益な活動事例やヒント	人数	%
	SA		N= 9
1	得られた	7	77.8%
2	得られなかった	0	0.0%
3	どちらでもない	2	22.2%
4	無回答	0	0.0%
合計		9	100%

３）今後の企業・NPO の協働推進への意向

	感想：今後の企業・NPOの協働推進への意向	人数	%
	SA		N= 9
1	推進していきたい	7	77.8%
2	推進したくない	0	0.0%
3	どちらでもない	1	11.1%
4	無回答	1	11.1%
合計		9	100%

Ｑ４．今回のダイアローグで、どのような新たな気づきや情報がありましたか？

・自分の考えの整理とブラッシュアップができた。

・様々な事。いろいろな事。

・よくＣＳＲを調べようと思った

・連携やつながることの大切さと難しさをしった。その中で、具体的にやれることを皆が示すことはとても重要だと思った。

・企業、行政、ＮＰＯの協働プラットフォームの必要性。NPO からの情報発信。

・ロートさんの活動を知ることができた。

・企業が収益を目的にしない事業に真剣に取り組んでいることが理解できた。

Ｑ５．今回のダイアローグで、わからなかった点、より知りたい点は何ですか？

・時間に追われました～！

・もう少しゆっくり各人のお話を聞けたら面白かったです。

・行政の役割

Ｑ６．今後、どのような機会を希望されますか

	希望する機会	人数	%
	ＭＡ		N= 9
1	企業とNPOの協働に向けた対話・交流の場	6	35.3%
2	企業とNPOの協働に向けた情報の提供	4	23.5%
3	企業とNPOの協働に向けた個別サポート	4	23.5%
4	その他	3	17.6%
合計		17	

（その他）

・行政、NPO、企業が一緒にテーブルを囲む機会は少ないので非常に有意義でした。

・地域と企業、NPO の協働

・相互交通の情報提供会

（３）気仙沼・女川セッション共通 事前アンケート実施報告

回収率

		当日参加者数（事務局除く）	回収数	回収率
1	事前アンケート	40	22	55.0%
合計		40	22	55.0%

回答者の属性

	所属	人数	%
	SA		N= 22
1	企業	6	27.3%
2	広義のNPO	12	54.5%
3	行政職員	2	9.1%
4	研究機関	0	0.0%
5	学生	1	4.5%
6	一般	1	4.5%
7	無回答	0	0.0%
合計		22	100%

Ｑ２．復興に向けて企業と NPO の協働を推進していますか？

	企業とNPOの協働推進	人数	%
	SA		N= 22
1	推進している（してきた）	9	40.9%
2	推進していない	10	45.5%
5	無回答	3	13.6%
合計		22	100%

Ｑ３．アンケート１で「している」と答えた方にお聞きします。

１）あなたの経験上、企業と NPO が協働することのメリット（利点・価値）は何ですか？

・専門的な技術をもっている。

・幅広いリソースを提供してくれる。

・何ができるか明確に示してもらえるので、連携しやすい

・CSR、社会との乖離を防ぐ

・ウィンウィン事業

・資金調達の面、事業の円滑推進の面で好ましい。

・ＮＰＯは現地スタッフの存在、現地事情詳しい等、現地取組での推進力がある。

・活動目的が明確⇒効果が期待出来る

・お互いの得意分野を活かして、幅広い活動が出来る。

２）あなたの経験上、企業と NPO が協働することのポイント（要点）は何ですか？

・企業にも NPO にも win になるように設計する。企業側が会社に説明がつくポイントを一緒に探る。

・互いの目標共有に時間をかけずに相互理解できる

・継続と評価改善

・団体の負担が少なく効果的である
・ミッションが同様であること。
・企業とＮＰＯのゴールの共有化と役割の明確化
・共通点を見つけやすい
・それぞれの活動、理念に対しての理解を深めること。対話の場を持つこと。

Ｑ３．アンケート１で「していない」とお答えした方にお聞きします。協働を推進していない最大の理由は何ですか？
・業種の性格上、業務を遂行する上で接点がほとんどない。
・特に考えたことがありません。
・機会に恵まれないこと。
・どのように企業と接点をもち推進していって良いか分からない為。
・そのような機会を積極的に作ってこれなかった。
・企業との接点（出会いの機会）がない
・NPO 団体同士の連携構築に重点を置いてきたため
・人材不足

（４）総論

本企画は、今後、ＮＰＯと企業の相互理解がより深まり、協働が促進し得る環境が生み出されている状況の獲得を目指し、①ＮＰＯ同士・企業担当者同士の相互理解が深まり、活動情報やヒントを得ること、②ＮＰＯと企業の協働に向けた論点（差異・共通点・協働ポイント等）が整理・共有される、の二点を目的とし実施した。

被災沿岸部である気仙沼市と女川町の二会場で企画し、両会場ともに約 20 名の参加を得て実施した。いずれの会場ともに、企業、NPO、行政の立場の方々からの参加を得たが、企業からの参加者は、気仙沼会場は地元企業が多く、女川会場は県外に本社を置く企業が多いという差があった。

アンケート結果も踏まえ、目的に対した結果を整理する。

- ✓ ＮＰＯ同士・企業担当者同士の相互理解が深まり、活動情報やヒントを得るという目的に対して、今回のプログラム（取組事例共有・ダイアログ・交流会）では、ＮＰＯ同士・企業担当者同士の相互理解を深め、今後の企業と NPO の協働推進意欲を喚起するものとなったが、一方で活動情報や事例からのヒントを十分に提供するものとはならなかった。
- ✓ ＮＰＯと企業の協働に向けた論点が整理・共有されるという目的に対して、現段階では、ＮＰＯと企業の協働に向けたポイントは、「出会いの段階」と「事業設計の段階」にあることを整理出来た。

以下、それぞれの項目に対して詳しく記述する。

（４）－１．ＮＰＯ同士・企業担当者同士の相互理解が深まり、活動情報やヒントを得る

今回のプログラム（取組事例共有・ダイアログ・交流会）は、ＮＰＯ同士・企業担当者同士の相互理解を深めるもの、今後の企業と NPO の協働推進意欲を喚起するものとなったが、一方で活動情報やヒントを十分に提供するものとはならなかった。

活動情報やヒントを十分に得られなかった理由として、場の設計では、事例報告者毎の報告時間が短かったことや、事例報告の内容が「企業と NPO の協働の推進事例」の共有に留まっていたこと、質疑応答など理解をさらに深める時間を確保出来ていなかったことなどが挙げられる。

（４）－２．ＮＰＯと企業の協働に向けた論点が整理・共有される

現段階では、ＮＰＯと企業の協働に向けたポイントは、「出会いの段階」と「事業設計の段階」に分けて考察できると考えられる。

出会いの段階においては、企業と NPO の協働のニーズは感じているものの、「そもそも接点を持つ機会が少ない」、「個人的な接点はあっても、お互いの取組については改めて知らない」ために協働に至らないという会場の声、アンケート結果が多く寄せられた。継続的に、協働の下地をつくりうる企業と NPO の出会いの場を設けていくことがまずもって求められる対応策として挙げられるが、一方で場をつくるだけではマッチングまで至らず、そこに明確な意思を持って参画する参加者をどう増やすかが論点として挙げられた。

また、事業設計の段階においては、「事業設計を一緒に描くこと」、「設計に時間をかけて（省略せず）、双方の文化・特性・見ている先等の相互理解を深める時間とすること」等のポイントが挙げられた。お互い異なる言語、評価指標をこの段階で明確に定め、定期的にチェックすることを盛り込んだ設計の必要性が共有された。

５．復興・被災者支援に取り組む多様な担い手を対象としたリトリート研修

①開催日時（1 泊 2 日）

2017 年 3 月 17 日（金）13：30-16：30

18 日（土）09：30-12：45

②開催場所

天水舎、不動尊公園キャンプ場ほか（宮城県伊具郡丸森町）

③参加人数

【1 日目】

・ダイアログセッション：19 名

【2 日目】

・リトリートセッション：計 17 名

-藍　染：6 名

-郷土料理作り：6 名

-散　策：5 名

④実施次第

【1 日目】

・趣旨説明

・県南での協働事例について話題提供

-阿部　結悟氏（(一社）ふらっと一ほく　代表理事／山元の未来への種まき会議　副代表）

・自己紹介

・「この場でこのメンバーに相談したいこと・聞きたいこと」の共有

・上記お題に基づいて 4-5 人のグループをつくり、意見交換

・意見交換の内容を全体共有

・閉　会

【2 日目】

・自己紹介（2 日目からの参加者のみ）

・オリエンテーション　～コーピング特性簡易尺度を用いたセルフチェック～

-福地　成氏（みやぎ心のケアセンター　地域支援部長）

・体験プログラム（藍染、郷土料理作り、散策から選択）

・ふりかえり

・昼　食

⑤参加者アンケート

（回収率）

	参加者数（事務局除く）	回収数	回収率
1日目	16	13	81.3%
2日目	14	13	92.9%

【1 日目】

Ｑ１．あなたのご所属を教えてください。

	所属	人数	%
	MA		N=13
1	NPO団体など	5	38.5%
2	地域団体	4	30.8%
3	行政	2	15.4%
4	社会福祉協議会	0	0.0%
5	その他	3	23.1%
合計		14	

（その他）

・地域おこし協力隊

・包括支援センター

Q2. 今回の研修に参加された目的は何ですか？（自由記述）

・「リフレッシュ研修という響きに惹かれ参加。次年度の研修事業の参考としたかった

・自分たちが活動をしている中、他の皆さんがどのような考え方で、どう活動しているか？参考にし、自分の次のステップに役立てたかった。

・他の団体の方々の活動内容と情報交換

・みなさんとつながりをつくるため、自分のリフレッシュのため

・多様な方との交流・別の視点から丸森を見る機会だと思った

・いつもの仲間、新しい仲間とのいつもとは違う角度からの交流、情報交換などを通してより結束が高まればよいと思ったから。・楽しそうだったから。

・リトリート

・活動から一歩離れて、考える場がほしかった

・協働の重要性について学ぶ

・プレイヤーのためのリトリートという発想にとっても共感しました

・リフレッシュと友人づくり、藍染の体験をしたくて。

・仕事上のモヤモヤを少しでも解消したかったから

Q3. あなた自身やあなたの所属する団体は、他のセクターや他の地域のプレーヤーと日ごろから協働を推進していますか。

	協働の推進	人数	%
	SA		N=13
1	推進している	11	84.6%
2	推進していない	1	7.7%
3	過去にしてきたが、現在はしていない	0	0.0%
4	これまでしてこなかったが、今後推進したい	1	7.7%
合計		13	

Q4. 今回の研修のそれぞれのプログラムについて感想を教えてください。

＜事例共有＞

	評価：事例共有	人数	%
	SA		N=13
1	参考になった	3	23.1%
2	多少参考になった	3	23.1%
3	あまり参考にならなかった	2	15.4%
4	参考にならなかった	0	0.0%
5	無回答	5	38.5%
合計		13	

（参考になった：気づきと感想）

・テーマがシンプルで良かった。参加者も多様なので発表しやすかった

・話の内容が分かりやすかった

（多少参考になった：気づきと感想）

・スライドが使えなくて残念

＜グループでの意見交換＞

	評価：グループでの意見交換	人数	%
	SA		N=13
1	参考になった	6	46.2%
2	多少参考になった	5	38.5%
3	あまり参考にならなかった	0	0.0%
4	参考にならなかった	0	0.0%
5	無回答	2	15.4%
合計		13	

（参考になった：気づきと感想）

・共通のテーマでディスカッションができ良かった

・同じ課題・共通している悩みや、今後の取組の方向性を模索しようと積極的に行えた

・皆さんとの話の中で課題が見えてきた

・キャリアやチームづくりについて話せた

・様々な立場からの意見を聞くことができました

・モヤっとチームがあってよかった。笑　日々の中では言葉にしないモヤモヤを、ある意味ちゃんと扱ってあげられたような気がして、モヤっとフワっとしつつも心地よい時間でした。

（多少参考になった：気づきと感想）
・いろいろな話ができて良かった
・そういうことに悩むんだなーと他の団体や立場のことが知ることができた

Ｑ５．今回の研修を通して得た気づきや学びを、日ごろの業務にどのように生かしていきたい・生かせると思いますか？自由にお書きください。
・日常様々な想い（悩み）があるが、普段話せていないのでは。改めて共有・共感の重要性を感じた。
・若い方々の考え方・取組を参考にしていきたい
・初めての丸森で若い方々のがんばりに感動しました。私自身元気をもらい生かしていきたいと思います
・専門外の人たちとつながることも大事だと思った
・地域住民の皆さんとの関わり方の参考にします
・広く全体を見よう・話しをしよう・無理しない（お互いに）
・それぞれの立場からの考えを聞けた。まずは違いを知ることから始まると思う。
・来年度の政策へ
・やっぱり、公的なお金でやるのって難しいかもしれませんね・・・学びとリフレッシュが、今自分の中で共存していて、結局どっちも大事！みたいなモードになっています。笑
・小さい事務所ですがチーム（専門職なので）動く部署なので、福地先生のお話は活かしていきたいと思いました。名取でやっている介護予防事業の今後の視点にも役立ちました。
・今後の人生に活かしていきます

Ｑ６.「協働のきっかけづくり」という視点から、今後どのような研修や機会を希望しますか？自由にお書きください。
・結果、今回のグループ分けは 4 人中 3 人が役所だったので、多様な業種でディスカッションできる場がほしい。
・先生のお話、コミュニティづくり etc をもっと聞きたい
・宮城県各地の現状を知るためにもそれぞれで定期的に研修をしていただきたい
・今回の内容をより改良していく形でいいと思う
・多様な方々とのコミュニティの場づくり
・もっと他コミュニティ（？）の団体（ただし、やっていることは似ている）との研修。一緒に何かをしたら化学反応が生まれそうなことにつながる研修がしたい。

・幅広い層との意見交換（未来を自由に語り合う）の場。
・希望します。一緒に何かをするということを一緒に考える場がほしいです
・今回同様
・行政の方が数名来てくれたことはとっても良かったと思います。来てくれたからこそ、もっともっと深いところまでお話できたらよかったなと思うので、やっぱり「協働」というテーマを扱う場合には、ディープなダイアログをしたいですねえ。
・今回のように適度に体験を通して、多職種の方とお話する機会があると、リラックスしてつながれるかと思います。またやってほしいです。
・こういった機会を重ねていくことで、どんどん他の展開につながっていくのだろうなと思いました。

【2 日目】
Ｑ１．あなたのご所属を教えてください。

	所属	人数	%
	MA		N=13
1	NPO団体など	6	46.2%
2	地域団体	4	30.8%
3	行政	1	7.7%
4	社会福祉協議会	0	0.0%
5	その他	3	23.1%
合計		14	

Ｑ２．今回の研修に参加された目的は何ですか？
・リフレッシュして、きちんと仕事ができるようになるための技法と、つながりを学びたいと思い参加しました。
・リフレッシュ
・悩みの共有、復興予算がなくなったあとの活動を相談したかった
・リトリート
・リフレッシュ
・藍染体験がしたい！
・自分たちが活動をしている中、他の皆さんがどのような考え方で、どう活動しているか？参考にし、自分の次のステップに役立てたかった。
・楽しそうだったから

Q3. あなた自身はふだん、休暇や休息をうまく取れていますか。

	休暇や休息の確保	人数	%
	SA		N=13
1	強くそう思う	0	0.0%
2	そう思う	3	23.1%
3	どちらともいえない	3	23.1%
4	そう思わない	3	23.1%
5	強くそう思わない	2	15.4%
6	無回答	2	15.4%
合計		13	

Q4. 今回の研修のそれぞれのプログラムについて感想を教えてください。

＜藍　染＞

	評価：藍染	人数	%
	SA		N=4
1	休息になった	3	75.0%
2	多少休息になった	1	25.0%
3	あまり休息にならなかった	0	0.0%
4	休息にならなかった	0	0.0%
合計		4	

（休息になった：気づきや感想）

・成り立ち等の深い話を聞きながら違う脳を使いました♡とてもリフレッシュになりました

・楽しかったです

・すごく楽しかった

（多少休息になった：気づきや感想）

・思ったようにできず、次回はもっとこうしたいなーと考えてます。

＜郷土料理作り＞

	評価：郷土料理作り	人数	%
	SA		N=4
1	休息になった	3	75.0%
2	多少休息になった	0	0.0%
3	あまり休息にならなかった	1	25.0%
4	休息にならなかった	0	0.0%
合計		4	

（休息になった：気づきや感想）

・耕野のお母さんたちが最高だった

・とても分かりやすく自宅でも料理したくなりました（普段してません）

＜散　策＞

	評価:散策	人数	%
	SA		N=4
1	休息になった	4	100.0%
2	多少休息になった	0	0.0%
3	あまり休息にならなかった	0	0.0%
4	休息にならなかった	0	0.0%
合計		4	

（休息になった：気づきや感想）

・丸森の風土と歴史を踏査することで、学びと癒しの両方が得られました。

・のんびりできた

・地域の特色、各所を案内、詳細なガイドをしていただき大変良かった

Ｑ５．今回の研修を通して得た気づきや学びを、日ごろの業務にどのように生かしていきたい・生かせると思いますか？自由にお書きください。

・従来固定されがちだったストレスの対処法を見直し、複数の選択肢から適切なものを選び取り、心身の安定を図っていきたいです。

・自分や周囲の気分転換に

・つながり（新しい人や組織と）ができたと感じる。役割が変化していく中で組織だけでカバーできない部分を多く語れた。

・たまには「学び」を求めず「楽しむ」ことを目的にする研修も大事だと思いました。中々難しいところではありますが。ガツガツしないマインドも大切ですね・・・

・解決すべき何か（課題など）に取り組む上で、その根本や要因を意識的に見つめていきたい

・人に悩みを話せない、頼れない人をなんとかしたいな。

・専門外のところにいろいろなヒントがあると思った

・自分達が活動してきた事は、大筋では OK であること、同じ悩みを抱えている皆さんがいることで、ある意味安心した。

Ｑ６．今回のような機会に限らず、今後どのような研修や機会を希望しますか？自由にお書きください。

・ぜひ、山元町で開催していただきたいです。

・キャンプ的なものも良いかと感じた

・切に希望します。会議室とかではなく、日常から離れて、連携やキャリアデザインなどの話ができる機会がほしい。

・地域のもっと幅広い層との交流の場（年配の方から子どもまで）

・いろんな地域や分野の人たちが集まってそれぞれの事例や工夫点などを共有するような機会

・なんでも面白そうなら参加します

・地域の方との交流の場づくり
・先生のお話とセルフチェックに、大変興味と理解が得られた（多分）こと

Ｑ７.（2 日間通してご参加いただいた方へ）2 日間全体のプログラムについて、感想を自由にお書きください。

・日帰りだったこともあり、全参加者と話ができて良かった。
・今回の知り合ったメンバーで、いろいろやっていきたいと思った。
・楽しかったです
・なんでも面白そうなら参加します
・いろいろな方と交流ができて大変いい時間を過ごしました。ありがとうございました！福地先生のお話も、自分を見直すいい機会になりました。
・泊まりだったのでみなさんとの距離がぐっと近くなった。他組織の人達と交流するのは良いことだと思った
・※お宿、夏はいいと思いますが冬の寒いときは普通のお宿にしていただきたいと思いました
・プログラムにあるリフレッシュ・・・正にｇｏｏｄでした。各団体の紹介の時間を取ってほしかった・・・当初のプログラムでは 2 回目にあったように思いましたが・・・。ありがとうございました。
・県としても初のプログラムとのこと、ごくろうさまでした。個人的には、森の中でゆっくりするのが癒しなのですが、こういったアプローチ（内容）での癒しもいいなと思いました。機会をつくっていただき、ありがとうございました。もっとみなさんと話したかったです・・・
・反省会して、次は自分たちで自由なやつを企画しましょう！したくなった！とっても良いとっかかりになったと思います！お疲れ様でした！
・一日目のプログラムに参加できず残念です。

⑥総論

以上のアンケート結果も踏まえて、振り返りを行う。本企画の目的は「復興に取り組む多様な担い手間の新たな関係性を築くために、日々の業務を離れた自然の中での交流や学びを得る機会を通し、お互いの事業・団体の方針や人となりを理解し合うことで、協働を促進するきっかけづくりを行うこととする」である（企画書より抜粋）。ここでは企画の軸である「協働を促進するきっかけづくり（つながりづくり）」と「リフレッシュ」という 2 つの視点から整理を行う。結論として以下の 3 点に要約する。

✓	参加者のニーズである、「つながりづくり」と「リフレッシュ」という 2 点において一定の評価を得ており、概ね参加者に満足してもらえた機会だといえる
✓	一方、「つながりづくり」からさらに踏み込んだ「協働」を生み出すためには、具体的なアクションを考える機会など、段階的な場づくりやサポートが求められる

✓　同様の機会へのニーズが認められる一方で、企画をどのように継続していくかは検討が必要である

以下、それぞれの項目について詳しく記述する。

⑥-１　参加者のニーズについて

アンケートの Q2 において参加目的を聞いた。「つながりづくり」という視点では、「新しい関係を作りたい」ということに加えて、より具体的な「相談したい・学びを得たい」という回答もあった。また、「リフレッシュ」という視点では、「純粋にリフレッシュしたい」という意見のほかに、「活動から離れて考える時間がほしかった」という声もあった。

⑥-２　研修への評価について

まず「つながりづくり」という点からの評価について、1 日目のアンケート結果及び関連する回答を見ていきたい。

初日の事例共有については、（一社）ふらっと一ほくの阿部結悟氏に県南での協働事例についてお話いただいた。プログラムの評価について 4 割近くが無回答（機材のトラブルで資料が投影できなかったことなどが要因と予想される）となっているが、半数近くが「参考になった」・「多少参考になった」と評価している。また続くグループでの意見交換については、8 割以上が「参考になった」・「多少参考になった」と回答しており一定の評価を得た。Q4 の「得た気づきや感想」、Q5 で問うた「今後の業務にどのように活用するか」の設問からは、「様々な立場からの意見が聞けた」、「いろいろな話ができてよかった」、「若い方々の考え方・取組を参考にしたい」などの回答があった。多様な参加者でのざっくばらんな意見交換を通じて、新たなつながりや学びを得られる機会となったといえる。

一方、「リフレッシュ」の視点からも整理を行う。2 日目のアンケートでは Q4 で各プログラムへの評価の回答を得た。総合して、回答者 12 名のうち 1 名以外が「休息となった」・「多少休息となった」と回答しており、企画の目的としていた「参加者のリフレッシュ」に寄与する機会となった。また他の設問から、オリエンテーションとして行ったみやぎ心のケアセンターの福地氏の講話を評価する回答も散見された。具体的には「自分を見直すいい機会になった」などであり、総合すると「本研修を通してリフレッシュする」ことと、「普段からリフレッシュする」ための学びを得られたことへの、双方への肯定的な評価だといえる。

⑥-３　今後について

こちらもまず「つながりづくり」という視点から見ていきたい。1 日目のアンケートの Q5 で「今後どのような研修や機会を希望するか」を聞いている。回答として今回のような機会を継続して求める声に加え、「一緒に何かをするということを一緒に考える場」、「（協働という視点での）ディープなダイアローグ」など、「具体的な協働というアクション」を考え実行するフェイズにおいては、さらなる機会づくりやサポートを求める声がある。

　またアンケート全体を通じて「リフレッシュ」の視点からも継続を求める声が多くあった。今回は企画実施にかかる経費の多くを、公的資金を活用して事業を行なったが、長期的な視点から企画としての継続性を担保するためには、参加費を徴収しての事業実施や有志での開催などを検討していく必要がある。

６．復興に向けた絆力フォーラム

①開催日時

2017 年 3 月 24 日（金）10:00～16:30

②開催場所

せんだいメディアテーク　オープンスクエア（仙台市青葉区春日町 2-1）

③参加人数

延べ 253 名

④実施次第

１）開会・主旨説明（10:00-10:10）

２）平成 28 年度「宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金」

成果報告会・情報交換会（10:10-14:50）

平成 28 年度「宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金」に採択された県内 14 団体が、活動実績や事業成果、課題、今後の計画について報告を行ったとともに、活動実績の展示ブースを設置し、一般来場者も含めた情報共有を実施した。

２－１）第一部（10:10-14:50）

・報告（5 団体）（10:10-11:00）

①一般社団法人 ReRoots

農業と食を生かした若林区復興プロジェクト

②特定非営利活動法人とめタウンネット

絆を繋ぐ・地域コミュニティでの心の居場所創造事業

③特定非営利活動法人仙台傾聴の会

人材育成と「みやぎ傾聴ネットワーク」交流研修会

④特定非営利活動法人地星社

被災地・地域活動団体ガイドブック作成事業

⑤特定非営利活動法人移動支援 Rera

移動とくらしのセーフティネットを地域と共に守り育むプロジェクト

・講評①（11:00-11:10）

・情報交換会①（11:10-11:30）

２－２）第二部（111:30-12:30）

・報告

⑥一般社団法人 ISHINOMAKI2.0

コミュニティ 2.0 ～次の 5 年に向けた創造的協働の創出

⑦特定非営利活動法人 Switch

石巻「はたらくサポーター」養成プロジェクト

⑧一般社団法人石巻じちれん

被災コミュニティの維持・形成と共助的見守り啓蒙・推進事業

⑨宮城県臨床心理士会

南三陸地域支援

⑩特定非営利活動法人奏海の杜

生きにくさを抱える人達が地域で生きる種を作る

・講評②

２－３）休憩（12:30-13:30）

２－４）第三部（13:30-14:50）

・報告

⑪特定非営利活動法人底上げ

南三陸町志津川高校内での学習支援居場所作り事業

⑫特定非営利活動法人びば！！南三陸

「あそびば」「まなびば」の講座運営事業を通じた、南三陸町の被災者と地域住民が自立、交流するためのサポート、見守り事業

⑬特定非営利活動法人キッズドア

NPO・小中高校・行政と連携した南三陸町の復興人材育成事業

⑭特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター

山元町における地域コミュニティ・支え合い活動推進事業

・講評・全体講評（14:20-14:30）

・休憩・情報交換会②（14:30-14:50）

３）円卓会議「復興に向けた絆力の強化を目指して」（14:50-16:20）

復興・被災差者支援を行うNPO等の絆力強化事業2事業の報告も交え、絆力を活かした復興支援のこれまでを参加者同士で振り返り、これからの復興に向けた絆力のありかたについて議論・共有しました。

３－１）復興・被災差者支援を行うNPO等の絆力強化事業報告

・報告１．公益財団法人地域創造基金さなぶり

東日本大震災におけるNPO等の活動実態調査

・報告２．一般社団法人みやぎ連携復興センター

東日本大震災からの復興に向けた企業とNPOのダイアローグセッション

復興を支える担い手のためのリフレッシュ研修

３－２）円卓会議

５テーブルに分かれ本日のプログラムの振り返りを行った後、参加者の皆さんの経験をもとに「復興に向けた絆力を強化するための三か条」をグループごとにとりまとめ、全体で共有しました。

４）閉会挨拶（16:20-16:30）

⑤参加者アンケート

回収率

		当日受付数（事務局除く）	回収数	回収率
1	事後アンケート	69	19	27.5%
合計		69	19	27.5%

Ｑ１．あなた自身についてお聞かせ下さい

１）本事業への関与

	事業への関与	人数	%
	SA		N= 19
1	事業関係者	10	52.6%
2	事業には関係していない	6	31.6%
3	無回答	3	15.8%
合計		19	100%

２）地域

	地域	人数	%
	SA		N= 19
1	気仙沼市	1	5.3%
2	南三陸町	3	15.8%
3	大崎市	1	5.3%
4	石巻市	4	21.1%
5	仙台市	8	42.1%
6	その他	0	0.0%
7	無回答	2	10.5%
合計		19	100%

３）属性

	所属	人数	%
	SA		N= 19
1	企業	1	5.3%
2	広義のNPO	10	52.6%
3	行政職員	3	15.8%
4	研究機関	1	5.3%
5	一般	1	5.3%
6	学生	1	5.3%
7	その他	0	0.0%
8	無回答	2	10.5%
合計		19	100%

Ｑ２．本フォーラムの感想をお聞かせ下さい

１）復興に取り組む NPO 等の活動への理解

	感想：NPO等の活動への理解	人数	%
	SA		N= 19
1	深まった	18	94.7%
2	深まらなかった	0	0.0%
3	どちらでもない	1	5.3%
4	無回答	0	0.0%
合計		19	100%

２）有益な活動事例やヒント

	感想：有益な活動事例やヒント	人数	%
	SA		N= 19
1	得られた	16	84.2%
2	得られなかった	0	0.0%
3	どちらでもない	3	15.8%
4	無回答	0	0.0%
合計		19	100%

３）絆力を活かした復興支援

	感想：絆力を活かした復興支援への意向	人数	%
	SA		N= 19
1	推進していきたい	17	89.5%
2	推進したくない	0	0.0%
3	どちらでもない	1	5.3%
4	無回答	1	5.3%
合計		19	100%

Ｑ３．今回のフォーラムで、どのような新たな気づきや情報がありましたか。

・NPO 支援組織のスタッフとして復興支援の現場で活動する皆さんのお話しが聞ける貴重なイベントでした

・次へのステップへの課題、目標への当団体の活動の線引き

・わらアートの様な地域活性の目の付けどころが素晴らしい

・Rera の様な会費制

・各々が異なる環境の中で「役に立ちたい⇒役に立とう」として取り組む様々な活動には「キラリ！」と光る個性が「在る」

・他団体のスタッフの方と face to face でお話しでき、勉強になりましたし、今後関わっていけたらと思いました。

・活動している地域で他の団体がどのような活動をしているか知る機会になった

・絆力の有益さが理解できていなかったが、それがよくわかった

・支援者自身のネットワークの大切さを意識しました

・地域の課題を具体的ニーズとして発見し、取り組みを創作していること

Ｑ４．今回のフォーラムで、わからなかった点、より知りたい点は何ですか。

・各団体のこれからの展望を中心にした車座懇談会などをしてほしいなぁ！

・各団体のそれぞれの活動

・支援した人、組織、地域がどんな未来に向かってほしいかそれぞれの事業の成果がぼやけていた。事業の目的ではなく対称の未来をみたい

・継続的な活動の流れについて、引き続き聞いていきたいです

Ｑ５．今後、どのような機会を希望されますか。

	希望する機会	人数	%
	MA		N= 19
1	絆力を活かした震災復興に向けた対話・交流の場	11	57.9%
2	絆力を活かした震災復興に向けた情報の提供	7	36.8%
3	絆力を活かした震災復興に向けた個別サポート	5	26.3%
4	自由記述	5	26.3%
合計		28	

（自由記述）

・参加者がお互いの意見を交わらせる場を軸にした車座懇談会を

・絆力を活かした震災復興に向けた 「情報の提供」で生まれた成果、失敗事例

・連携プロジェクトの発信

・実践上の具体的事例（成功、失敗）からの教訓の研究

・マネジメント上の事例、具体的問題を扱って深めてほしい

⑥総論

本企画は、事業の成果が広く共有され、成果に基づいた情報交換が行われること、今後の復興に向けた絆力の在り方・強化についての意識・ノウハウが広く共有されること、の二点を目的とし実施した。

事業関係者・事前申込者だけでなく、多くの県民に見て頂ける様、仙台メディアテーク、オープンスクエアにて公開形式で開催した。結果、事前申込者 79 名を含む、253 名の方々に来場いただき、報告や展示をご覧いただき、実施することが出来た。

アンケート結果も踏まえ、目的に対した結果を整理する。

✓ 事業の成果が広く共有され、成果に基づいた情報交換が行われるという目的に対して、事後アンケートではほとんどの方が「理解が深まった」と回答しており、事業成果の共有に一定の成果があったことが伺える。

✓ 今後の復興に向けた絆力の在り方・強化についての意識・ノウハウが広く共有されるという目的に対して、事後アンケートでほとんどの方が「協働による取組を推進していきたい」と回答しており、後半の円卓会議における議論による意識共有・ノウハウ共有が進んだことが伺える。

以下、それぞれの項目に対して詳しく記述する。

⑥－１．事業の成果が広く共有され、成果に基づいた情報交換が行われる

事業の成果が広く共有され、成果に基づいた情報交換が行われるという目的に対して、事後アンケートではほとんどの方が「理解が深まった」と回答しており、報告会を通した事業成果の共有に一定の成果があったことが伺える。

一方で、報告団体毎に成果展示物の展示を行い、多くの方に来場、見学頂いたものの、報告会と同時並行の為、ほとんどパネルの前に立ち来場者に時間が設けられなかったことは、運営の反省点として挙げられる。

⑥－２．今後の復興に向けた絆力の在り方・強化についての意識・ノウハウが広く共有される

今後の復興に向けた絆力の在り方・強化についての意識・ノウハウが広く共有されるという目的に対して、事後アンケートでほとんどの方が「協働による取組を推進していきたい」と回答しており、後半の円卓会議における議論による意識共有・ノウハウ共有が進んだことが伺える。

一方で、円卓会議の後半をグループセッションとしたため、一般来場者等が入りにくい雰囲気をつくってしまったことは、運営の反省点として挙げられる。

以上